

メンバーの金利見通し引き下げはあるか～米連邦公開市場委員会(FOMC)

2018年12月17日(月)

来週18日、19日に年内最後となる米連邦公開市場委員会(FOMC)が開催されます。利上げ見通しが圧倒的となっているが、一部で金利据え置き見通しが見られます。

金利市場での織り込み度合いからの利上げ確率は70%台となっています。

金利市場は若干現状バイアスが働きがちなため数字ほど(2割強)ほど利上げの確率があるようには見えず、為替や株式市場での利上げの織り込みが進んでいます。

トランプ大統領がFRBがもし今回利上げの決断をしたら「馬鹿げている:Follish」だと強く批判していますが、専門家などによる見通し調査では利上げ見通しが圧倒的で、市場でも利上げを織り込む動きが進んでいることから、据え置きとなった場合、ビッグサプライズとなりそうです。

大勢の見通し通り据え置きとなった場合にも、注目材料があります。

来年以降の利上げに対するFOMCメンバーの見通し(ドットプロット)です。前回ドットプロットが示された9月のFOMCでは来年中3回の利上げ見通しが中心値となりました。

しかし、先月パウエルFRB議長が現状水準は中立的な金利水準レンジをわずかに下回っていると発言。利上げが必要となる低金利状態の解消が近いことを示唆したことで市場の利上げ見通しが後退。金利市場の織り込みをみると、今回利上げをした場合来年利上げがあっても一回、一度も利上げしない確率も4割以上に上る状況と来年の利上げ見通しが大きく後退しています。

金利先物市場動向からみた利上げ確率を表示しているCMEFEDWATCHを確認すると今回利上げしたと仮定して、来年一年間金利を据え置く可能性は47%と5割に迫る勢い。パウエル発言前となる一か月前の時点では19%だったことを考えると一気に利上げ見通しが後退していることがわかりませす。

来年2回以上利上げする見通しは直近で17%とかなり低い数字に。

9月時点でのFOMCメンバーの見通しの中心値である今回利上げして、来年3回の利上げを見込むという見方は、それ以上の利上げ回数見込みと合わせても3.1%とかなりの少数派になっています。

同時に発表されるFOMCメンバーの金利以外の予想(プロジェクション)も要チェック。失業率の下げ余地はあまりないですが、物価(PCEデフレーター)・雇用成長・雇用などの見通しは確認しておきたいところです。

なお、米雇用は毎月発表の非農業部門雇用者数こそ弱めに出了ものの直近総じて力強い動きを続けています。経済成長や雇用などと合わせ、来年も力強い数字が出るが見込まれているようだドル買いの動きが強まる可能性があります。